

入来牧場放牧育成雌牛の登録審査成績

紙 屋 茂

緒 言

入来牧場では繁殖素牛を周年放牧育成している。登録審査時の得点は市場に出荷される子牛の能力の一指標として重要視される。

本調査では、繁殖素牛の放牧育成技術を向上させるため、入来牧場産育成雌牛（A）と入来牧場に子牛市場から導入した繁殖用素牛（B）について登録審査時の月齢、栄養度（Body condition score : BCS）および審査得点について、年度間の違いや相互関係を明らかにしようとした。

材料と方法

入来牧場で1991年から1994年まで4年間で登録審査を受けた84頭について審査月齢、栄養度（BCS）、審査得点および子牛の離乳時までの1日増体量（DG）と審査時の測尺値について、年度間の違いや相互関係を分析した。

結果と考察

審査時の月齢は牧場産雌牛が長く、導入雌牛が短く、有意な差が認められた（第1図）。BCSは年度間で有意な差が認められ、92Aが特に低く、93A、94Aが高い値を示した（第2図）。

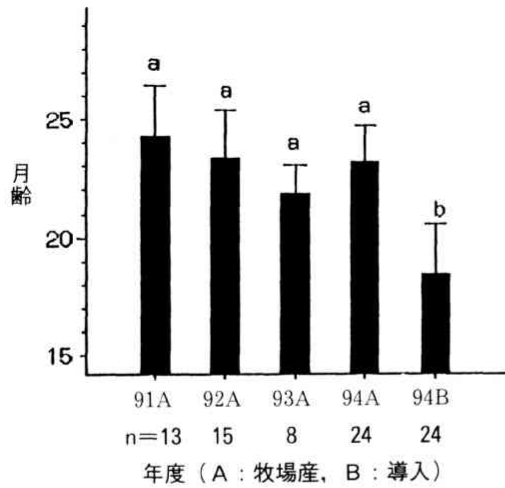
審査得点は年次及び牧場産牛と導入牛間で有意な差が認められ、92Aは非常に低かった（第3図）。

体積・均称の減率は92Aが高く、他の年度間と有意差が認められた（第4図）。牧場産雌子牛の離乳時までのDGと、審査時の胸囲との関係は、離乳時のDGが高いほど胸囲も大きくなる傾向を示した（第5図）。

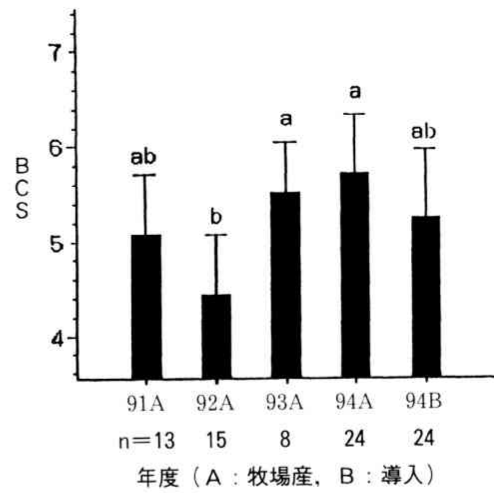
導入子牛の母牛の審査得点と育成牛の審査得点の間には一定の関係は認められなかった（第6図）。

以上のことを要約すると、次の通りである。

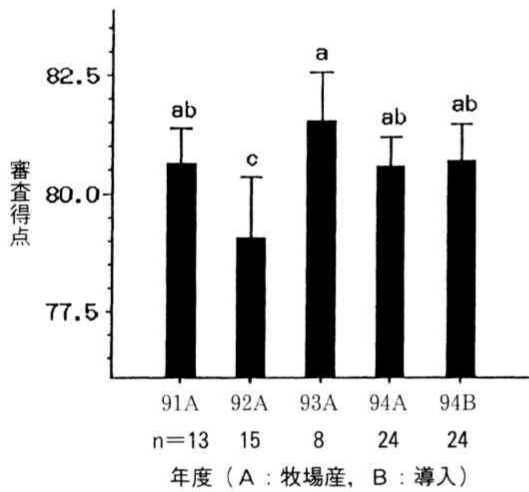
- 1) 審査月齢は年度が進むにつれて短くなる傾向を示した。
- 2) 栄養度（BCS）は、審査時の年度間で異なる傾向を示した。
- 3) 審査得点も審査時の年度間で異なる傾向を示した。
- 4) 審査時の胸囲は、離乳時までのDGが高いほど大きくなる傾向を示した。
- 5) 母牛の審査得点と子牛の審査得点の間には一定の関係は認められなかった。



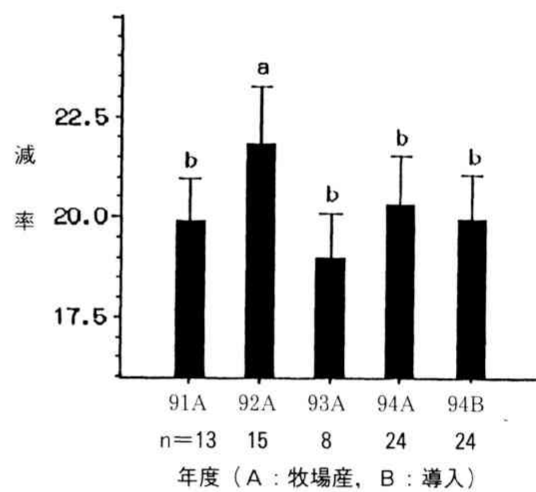
第1図 入来牧場における黒毛和種放牧育成雌牛の審査月齢



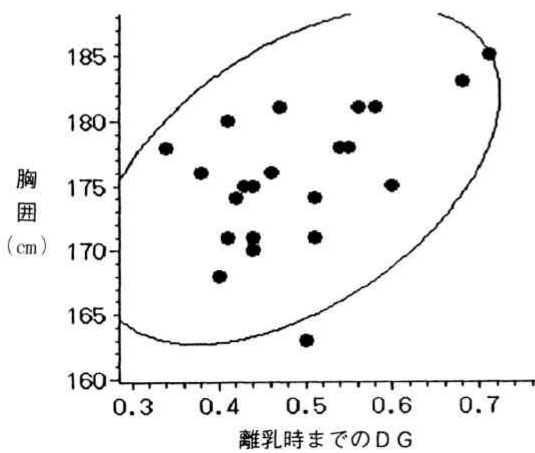
第2図 入来牧場における黒毛和種放牧育成雌牛の審査時のBCS
BCS: Body condition score



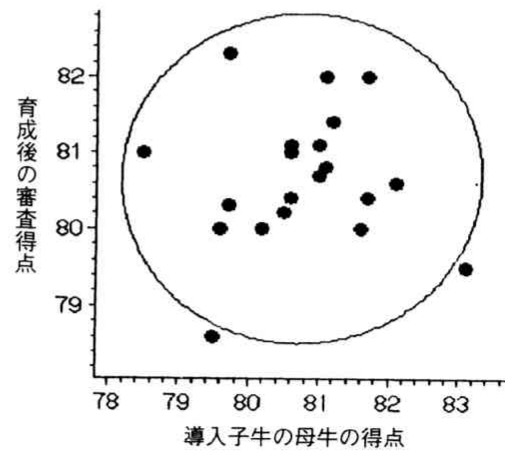
第3図 入来牧場における黒毛和種放牧育成雌牛の審査得点



第4図 入来牧場における黒毛和種放牧育成雌牛の体均減率



第5図 入来牧場産雌子牛の離乳時までのDGと登録審査時の胸囲との関係



第6図 牧場に導入された繁殖用子牛の母牛得点と育成後の審査得点との関係